

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第138回 「成功体験からできることを増やそう！」

みえ発達障がい支援システムアドバイザー 竹村 マミ

お子さんにとって“わからない”“できない”ことを、何とかできるようになってほしいという願いから、無理にさせようとすることはありませんか。確かにそうすることでできるようになることもありますが、大抵は、拒否をしたり嫌いになったりします。それは、学童期、もしくは大人でもそういうことはあると思います。

こんな例があります。頭の中でイメージすることの乏しさや手指の不器用さがある幼児さんに絵を描かせようとしたら、全く描こうとしませんでした。どのように描いたらよいかわからない、或いは、上手に描きたいという思いがあるのでしょうか。そこで、簡単な絵かき歌を取り入れてみました。初めは見るだけでした。2回目は手を添えて一緒に描いたところ、3回目からは自分で描きました。すると、描けたことが嬉しかったのか、それまで開いたことのなかったお絵描き帳を自ら持ってきて、歌いながら描く姿が見られ、その後、学校でも抵抗なくいろいろな絵を描いています。絵かき歌は独創性が育たないから良くないと思われる方もありますが、苦手なお子さんには、遊びの楽しさを知らせる上で必要なツールになると思います。

また、砂遊びを嫌がるお子さんに、砂を無理に触れさせようとするとかえって嫌がります。過敏が影響している場合もあります。まずは、楽しく遊ぶ様子を見せて、指先にほんの少し触れることからスタートしてみてください。

簡単なことから“できた”という体験を積むことで遊びの幅も広がります。身の回りのことについても、無理にやらせようとしないで、まずは90%大人がして、最後だけを自分でさせて「できたね」と褒めることで、成功体験を積み重ねてあげてください。そして徐々に大人の手を引き算していくことが、ひとりのできる近道になると思います。

※気になることがありましたら、子育て健康課（377-5652）にご連絡ください。

※みえ発達障がい支援システムアドバイザー：三重県小児心療センターあすなろ学園（現三重県立子ども心身発達医療センター）で1年間研修後、県の認定を受ける。あさひ園内療育、途切れない支援事業、保護者相談等を実施。専門医療機関のワンストップ窓口。

6月1日(木)に「三重県立子ども心身発達医療センター」が開設します。

三重県では、発達支援が必要な子どもが健やかに成長できるよう、市町等との連携による途切れない支援体制の構築を目指しています。

これを受けて、県立草の実りハビリテーションセンター、県立小児心療センターあすなろ学園及び県児童相談センターの「難聴児支援部門」を統合し、「三重県立子ども心身発達医療センター」を、併設する県立かがやき特別支援学校(分校)とともに、国立病院機構三重病院の隣接地に開設することとなりました。

このセンターは、「子ども一人ひとりが、その子らしく豊かな人生を送るために」を理念として、児童精神科と整形外科、小児整形外科を中心とした医療法に基づく病院であると同時に、児童福祉法に基づく福祉施設でもあります。

心身の発達や特性、育ち、環境など様々な要因により、立ち止まり困っている子どもとその家庭に対し、医療、福祉、教育等の専門性を結集した「チーム医療」を提供します。

住所：三重県津市大里窪田町340番地5

受診予約電話番号など詳細は、ホームページをご覧ください。